

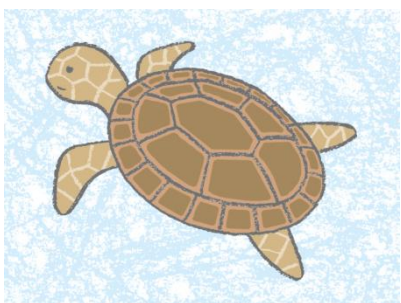
※ かい答は、《かい答用紙》に書きましよう。

上田さんのグループは、社会科の学習で、次の【資料】から、分かったことや考えたことについて、次のページのよう【話し合い】をしています。

【資料】(※ 1~8 は、段落番号を表しています。)

1 「むかしむかし 浦島は たすけたカメにつれられて 龍宮城へ来て見れば 絵にもかけない美しさ。みなさんもよく知っている「浦島太郎」の歌です。世にも美しい海の中の様子が、歌の中にえがかれています。

2 しかし、近年、「浦島太郎」に歌われる美しい海に、大量のプラスチックのごみがあふれ、海の生き物たちがこまっているのだそうです。たとえば、①ウミガメがビニールせ



いのつり糸や漁のあみにかまったり、海鳥がビニールぶくろをえさとまちがえて食べたりしているというのです。なぜ、プラスチックのごみが海にあふれているのでしょうか。

3 プラスチックは、軽くてこわれにくく、しかも安いので、わたしたちの生活のいろいろな場面で②使われます。ペットボトルや、食品を入れたり包んだりするよう器、ラップ、食器などは、今や、生活になくはならないものとなっています。

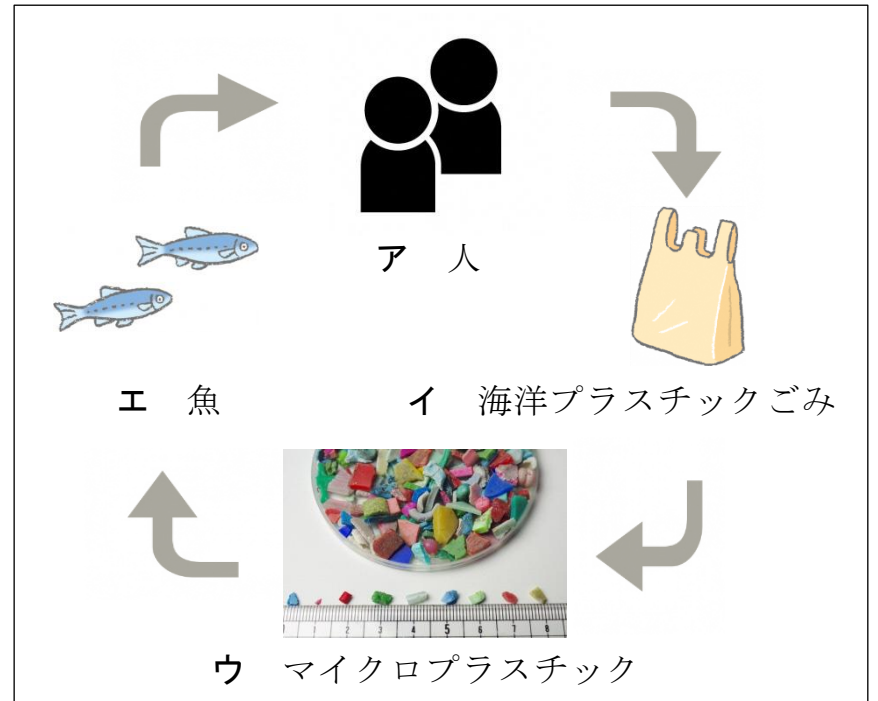
4 実は、プラスチックの「こわれにくさ」は、人間が使うときには長所となりますが、ひとたび自然の中に入りこんだら、短所に変わります。プラスチックは、草や木のように自然にかえらず、数百年もの長い間、プラスチックとして残り続けるのです。それなのに、いらなくなったプラスチックの一部は、そのまま残らています。こうして、海に流れこんだプラスチックのごみは、海洋プラスチックごみとよばれ、それが、今、世界的な問題となっています。

5 ちなみに、日本から出る海洋プラスチックごみの量は、一年間に六千万トンであるというデータがあります。

6 世界の海洋プラスチックごみによるかんきょう問題は、今後、さらに広がっていくことが心配されています。なぜなら、波や紫外線のえいきょうを受けた海洋プラスチックごみが、やがて、マイクロプラスチックという、5ミリメートル以下の小さな小さなごみとなり、ずっと海の中に残り続けるからです。

7 このマイクロプラスチックは、とても小さいので、回しゅうするものがとてもむずかしくなります。さらに、マイクロプラスチックを飲みこんだ海の生き物が体に異変を起こすことや、海の生き物を食べた他の生き物が悪いえいきょうを受けることが心配されています。

8 美しい海に代表される地球の自然と、自然の中でもに生きるわたしたち人間をふくむ生き物たち。すべてがすみやすい地球づくりを考えていかなければならないと思います。



【イメージ図】

【話し合い】

〈中山〉
夏休みに海に泳ぎに行ったとき、ペットボトルやプラスチックのよう器などのごみが多いなと思いました。でも、日本の海洋プラスチックごみの量が、一年間で六千万トンにもなると思っていませんでした。



〈小林〉
【資料】の中の**7**段落に出てきた、「海の生き物を食べた他の生き物が悪いえいきょうを受ける」という内ようが分かりにくかったのですが、【イメージ図】の(③)から(④)のつながりの部分を見て、よく分かりました。

〈上田〉
日本のことを取り上げた内ようは、わたしたちとは関係のないことではなく、身近にある問題だということを感じさせてくれます。

〈大川〉
日本の海洋プラスチックごみの量があまりに多くて、どれくらいかのイメージがわきにくいので、他のものにとえてみると、分かりやすくなるかもしれません。

一 【資料】の中の——線部①「ウミガメ」は、どんなことを説明するために取り上げていますか。最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 海洋プラスチックごみが、愛媛県の海岸に大量に流れついていること。
- イ 海洋プラスチックごみが、人間の生活にいきよをあたえていること。
- ウ 海洋プラスチックごみのえいきようが、海の生き物に広がっていること。
- エ 海洋プラスチックごみの量が、海の魚の量よりも多くなっていること。

二 【資料】の中の——線部②「使われます」の主語として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア プラスチックは イ 安いので
- ウ わたしたちの エ 場面で

三 【話し合い】の中の上田さんの発言は、【資料】の中の、どの段落についてもですか。①から⑧までの段落番号の中から一つ選んで、その段落番号を書きましょう。

四 【話し合い】の中の(③)、(④)に当てはまる内ようとして、最もふさわしいものを、【イメージ図】の中のアからエまでの中から一つずつ選んで、その記号を書きましょう。

五 【話し合い】のあと、大川さんは、日本の海洋プラスチックごみの量を、クジラの重さにたとえました。次の【大川さんのたとえ】の中の()に当てはまる数を、下の【クジラの重さ】を参考に計算して書きましょう。

【大川さんのたとえ】

一年間に出る日本の海洋プラスチックごみの量は、六千万トンです。

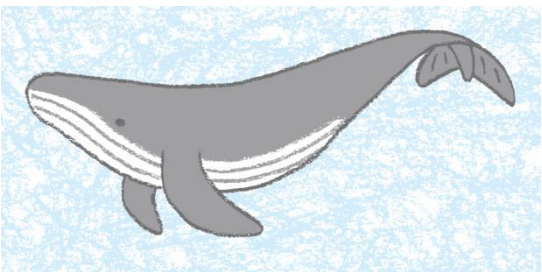
これを、クジラ一頭の重さにたとえてみると、クジラ()頭分になります。



【クジラの重さ】

地球で一番大きい生き物と言われるシロナガスクジラ1頭の重さは、

200トン になるよ。



番号前 (

)

一

二

三

(

)

四

③

④

五

(

)

一 ウ

二 ア

三 5

四 3
エ

4
ア

五 三十万